

4. 発見の意義

- ・県内の戦国時代の山城跡の全体を発掘調査した例はほとんどなく、郭や堀切、建物の配置など山城の全体像を解明する発見になりました。
- ・普源田砦跡の年代は三隅氏が益田氏と争った最後の時期であり、この地域の歴史を紐解く資料と言えます。

関 連 年 表

時代	西暦	益田氏・三隅氏の主な出来事	全国の主な出来事
平安時代	1086	藤原定道(国兼)、石見国府に着任 定住後、御神本氏を名乗る 益田川の河口付近に湊町が営まれ始める	白河上皇により院政が始まる
	1167		平清盛が太政大臣になる
	1184	4代兼高、源氏から石見国押領使に任命される	
	1185		壇ノ浦の戦いで平氏が滅亡する
鎌倉時代	1192	御神本氏が益田・三隅・福屋・周布氏等に分かれる	源頼朝が征夷大将軍になる
	1274		元軍が九州に襲来(文永の役)
	1281	元寇に備え、命により沿岸の要地に砦を築く	元軍が九州に襲来(弘安の役)
南北朝時代	1333		北条氏が滅亡する
	1336	三隅兼連、七尾城を攻める	南北朝の内乱が始まる
	1338		足利尊氏が征夷大将軍となり、室町幕府を開く
	1350	三隅城が高師泰に大軍で包囲される 三宅御土居築造される	
室町時代	1392		南北朝の合一
	1428	益田氏と三隅氏が争う	応仁の乱が起こり、東西両軍が争う
	1467		
	1479	益田氏は西軍、三隅氏は東軍として参戦 雪舟、益田兼堯像を描く	足利義政、銀閣寺を建てる
	1489	この頃益田川河口近くの湊町が繁栄する	幕府が大内義興に対貿易の管理を命じる
	1516	大内義興が石見国守護となる	
	1517	洞明寺山で益田・福屋連合軍と三隅氏が戦う	
	1518		ポルトガル人が種子島に漂着し、鉄砲を伝える
	1543	益田藤兼、岡見で三隅氏と合戦	敵島の合戦で毛利氏、陶氏を破る
	1555	益田藤兼、毛利氏と正式に和睦する	
戦国時代	1563		室町幕府滅びる
	1573	宗像大社の遷宮に益田氏が大量の材木を寄進	
	1578		本能寺の変で織田信長が自害する
安土桃山時代	1582		豊臣秀吉が全国を統一する
	1590		関が原の戦い
	1600	益田氏、毛利軍に従い西軍に加わる 益田元祥、長門國須佐へ移る	

1. はじめに

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局からの委託を受けて、平成27年度から三隅益田道路建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を行っています。今回は、普源田砦跡の現地説明会を開催し、みなさまに調査成果をご覧いただきたいと思っております。

なお、調査にあたってご理解、ご協力をいただきました地元の皆様や、国土交通省中国地方整備局 浜田河川国道事務所、浜田市教育委員会を始めとする関係各機関の皆様方にあらためてお礼申し上げます。

2. 普源田砦跡の概要

普源田砦跡は、浜田市三隅町岡見の集落を通過して日本海へ流れる岡見川右岸の標高約65mの丘陵上に位置しています。周辺には茶臼山城跡、碓石(いかりいし)城跡等の城跡が存在します。平成29年度までに行われた地表観察で、郭(くるわ)3か所、土塁1か所、堀切2か所、竪堀(たてぼり)4か所などの遺構が確認されています。

今年度は、山城全体の約6,900㎡を調査する予定で、現在は丘陵尾根上を調査し、これまでに竪穴建物跡1棟、掘立柱建物跡4棟、溝3条などの遺構を検出しています。



- 1 普源田砦跡
- 2 茶臼山城跡
- 3 次郎丸砦跡
- 4 碓石城跡
- 5 大多和外城跡
- 6 針藻城跡
- 7 黄金町城跡
- 8 角落し遺跡
- 9 三隅石塁

普源田砦跡と周辺の中世遺跡の位置

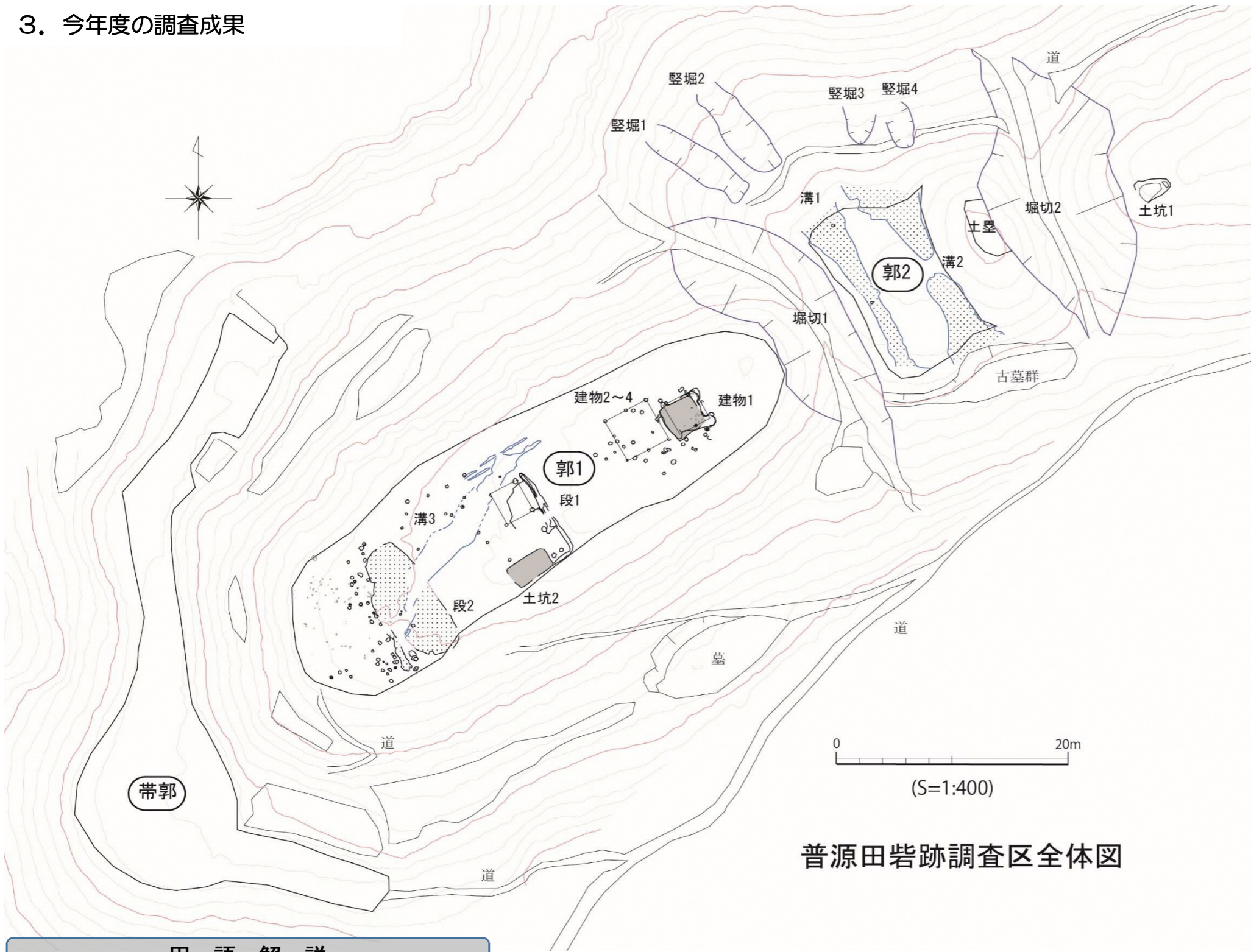
編集・発行
 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
 〒690-0631 松江市打出町33
 TEL.0852-36-8608
 FAX.0852-36-8025
 E-mail.maibun@pref.shimane.lg.jp
<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

三隅益田道路発掘調査事務所
 〒699-3226 浜田市三隅町岡見666
 TEL 0855-32-4175
 FAX 0855-32-4176



まいぶんくん

3. 今年度の調査成果



普源田砦跡調査区全体図

用語解説

- 郭・曲輪（くるわ） 山頂を削平し傾斜面を削った土を低い面に盛り上げたりして造られる平場。
- 土塁（どるい） 土を突き固めたり削り残したりして築かれた土手。
- 堀切（ほりきり） 尾根伝いの攻撃を遮断するために、尾根筋に直角に掘り込んだ空堀。
- 竪堀（たてぼり） 傾斜地での敵の横移動を防ぐために山腹に掘られた空堀。



- 1 普源田砦跡 2 蔵廻り遺跡 3 茶臼山城跡 4 高城跡（三隅氏居城）
- 5 鳶巣城跡（周布氏居城） 6 三宅御土居跡（益田氏居館） 7 七尾城跡（益田氏居城）

現地説明会を開催する遺跡と周辺の主な城館

普源田砦跡の麓を通る県道171号線は、南西方向の益田市下種町を通り七尾城へと続いています。また、北東方向には三隅町古湊を經由し、国道9号線と合流して鳶巣城へと続きます。普源田砦跡は岡見地区を通る街道をおさえる位置に築かれた城跡と考えられます。

島根県内の中世竪穴建物



普源田砦跡 建物1



中須西原遺跡 方形竪穴建物SX41

建物の一部が半地下式となる「竪穴建物」は、縄文時代から古墳時代にかけて県内でも数多く見つかっています。

西日本では奈良時代以降は、しだいに建てられなくなり、掘立柱建物が家屋の中心になっていきます。

一方で、東日本と西日本の一部の地域では、鎌倉時代から戦国時代にかけて大小の竪穴建物が見つかっています。これらは半地下式の倉庫や工房と考えられ、掘立柱建物と同時に建てられていたことが分かっています。

島根県内では、これまでに益田市でのみ確認され、益田川河口近くの湊町（沖手遺跡・中須西原遺跡）で3棟、益田市美都町の銅精錬工房（大年ノ元遺跡）で5棟以上が見つかっています。